

「(仮称)小樽市総合戦略」(素案)に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

- | | |
|----------------------|-----|
| 1 意見等の提出者数 | 4人 |
| 2 意見等の件数 | 13件 |
| 3 上記2のうち計画等の案を修正した件数 | 0件 |
| 4 意見等の概要及び市の考え方 | |

No.	意見等の概要	市の考え方等
1	札幌からの移動の利便性を考えると、まずは札幌により近い所から活性化させることで、小樽という町をもっと身近に感じてもらうことがポイントになると感じました。 銭函などは札幌からの移動が楽であり、小樽の入口としては一番わかりやすく伝えやすい地域なので、情報発信を銭函などを中心に話題作りをしていくと人が集まりやすく、そこから小樽に興味を持ってもらえるのではないかと感じます。	当市の課題を解決していくうえでも、地域の独自性に配慮する必要があり、将来的にはそれぞれ異なる戦略を設けることにより、地域の発展を当市全体の発展につなげていきたい考えです(Ⅱ. 基本的な考え方～2. 各地域の特性に配慮した戦略の必要性に記載)。 銭函地区については、札幌市に隣接した好立地と認識しておりますので、情報発信の場として活用すべきというアイデアにつきましても、今後、施策を立案する際の参考とさせていただきたいと存じます。
2	育て上げる力として食育を小樽からアピールできると、育児に力を入れていることがわかりやすく興味持ちやすいと思うので、そのためのセミナーなどがあると有効に思えます。子育ての環境を整えば自然と住み続ける人や移住してくる人が増えてくると考えます。	小樽の特色を生かした食育や、セミナーの開催などによる情報発信の手法につきましても、今後、施策を立案する際の参考とさせていただきたいと存じます。
3	子育て支援に小中学生という観点を加え、現状の放課後児童クラブで賄えない範囲をカバーすべき。児童クラブでは18時以降などの預けができないことから、自然と仕事自体を短めに設定せざるを得ないが、この解消は小樽での居住・移住を推進するポイントとして重要と思えます。	放課後児童クラブの預かり時間延長などについては、市外に通勤されている方の利便性向上や、当市への移住を推進するツールとして有効と思われますので、今後、施策を立案する際の参考とさせていただきたいと存じます。
4	廃校になった学校グラウンドなどをもっと一般開放し、札幌からも利用してもらうことでより活性化につなげるべき。水道トイレなどの設備があるためキャンプとして利用したり、少年野球やサッカーなどで利用が考えられると思えます。	廃校になった学校の中には、建物等が老朽化していたり、耐震化基準を満たしていないものもあることから、安全管理上の問題や維持管理コストなどを考慮しつつ、活用策について引き続き検討させていただきたいと存じます。
5	小樽は観光都市として発展してきた背景があり、多くの観光名所があるが、素晴らしい資源である「鮭(サケ)」を活用すべき。鮭が川に帰ってくるのは、北海道が群を抜いて多いことから、鮭の遡上を見せることができれば良い(小樽運河などでショーのように見せる)。	近年では、小樽運河においても鮭が遡上するようになり、観光客を楽しませている反面、大量の死がいにより景観を損ねたり、異臭の原因になるなど課題も多いところです。ご意見いただいた件につきましても、河川整備の手法なども含め、活用策について慎重に検討させていただきたいと存じます。

No.	意見等の概要	市の考え方等
6	<p>この間の会議の進め方を見ていると、これからのまちづくり戦略を定めるためのオール小樽での意見交換、協議等があまりに薄く、熟議がなされたとは言い難い印象が拭えません。</p>	<p>地方版総合戦略の期間は、本年度を含む平成31年度末までの5年間であり、当市においても既に地方創生関連の取組が始まっております。</p> <p>また、喫緊の課題である人口対策・地方創生に関する取組について、平成28年度の予算編成に反映させるため、PDCAサイクルの始まりでもある総合戦略を早急に策定する必要があったところです。</p> <p>ご指摘のとおり、総合戦略の策定スケジュールについては、熟議が不足している部分もあろうかと存じますので、次年度以降の戦略見直しにあたっては、できるだけ協議を重ねてまいりたいと考えております。</p>
7	<p>将来の都市像である「訪れる人を魅了し、暮らす人には優しい、市民幸福度の高いまち」について、小樽市民が共有できる姿のイメージが湧きません。訪れる、暮らす、幸福度、繋がりが解りません。元気のある、生き生きとしたイメージが無ければまちは活性化しません。</p>	<p>今回の総合戦略では、安心して子育てできる環境づくりなど、生活利便性の向上について、より重点を置いて取り組むことにより、市民一人ひとりが幸福を感じられるよう、ボトムアップ型のまちづくりを行っていく考えです。</p> <p>幸福の感じ方は個人で異なる場所ですので、必ずしも明確なイメージが伴うものではありませんが、まず暮らしやすいと感じる市民を増やすこと、強みである観光で交流人口を増やしつつ、将来的には定住人口に取り込んでいくという流れを想定しています。</p> <p>ご提言のあった、「元気のある、生き生きとしたイメージ」につきましては、個別のプロジェクトを推進する際の参考とさせていただきます。</p>
8	<p>5年ごとに人口が1万人減少している危機的状況で、年齢構成にも大きな歪みが生じている。生産年齢人口の大きな減少に伴う税収の減、人口の45%を占める高齢者を中心とした社会保障費の増だけで自治体は破綻してしまうので、抜本的な政策を集中し進める必要がある。</p> <p>まず「働く場」(安定した雇用)があって、初めて住環境、生活環境、教育環境等の利便性が問われることから、短期的には向こう5年間、「安定した雇用の創出」に資本を集中し、「地場企業の強化」「企業誘致」「人材誘致」等による雇用の創出に力を入れるべき。</p> <p>「少子化対策」「子育て支援」「地域の教育力向上」等は、地味に末永く継続して進めることでじわじわ効果が表れる施策なので、中長期的に粘り強く展開すべき。</p> <p>5年間の総合戦略としては、インパクトのある「ヒト・モノ・カネの流れ」を誘導する、産業政策中心とした施策展開が重要と考えます。</p>	<p>平成21年経済センサス基礎調査結果によると、当市における企業産業大分類別の企業数は、「卸売業、小売業」「建設業」が5割強を占めています。また、平成23年度市民経済計算推計結果報告書によると、当市における名目上の経済活動別市内総生産の構成比も、第3次産業が8割強を占めています。</p> <p>このような本市の産業構造を考えますと、人口減少はこれらのマーケット縮小に直結することから、まずは出生数の増加や人口流出の減少に寄与する施策を中心に実施したいと考えております。</p> <p>当市としましても、「安定した雇用の創出」が必要という認識は変わりませんので、総合戦略においても「地場企業の強化」「企業誘致」「人材誘致」等による事業を位置づけ、引き続き雇用創出に取り組んでまいりたいと考えております。</p>
9	<p>小樽市独自の戦略を策定するためには、形式的な内向きの意見で満足せず、多様な意見を多く収集する必要があるのではないかと。</p>	<p>市民の皆様から広く意見をお伺いするため、市長が各連合町会に出向き、市民の皆様と意見交換する「(仮称)おたる・WAKI・あい・あいたーク」の新たな実施を検討中であり、市が設置する審議会や協議会の市民公募委員のあり方についても、現在見直しをしているところですので、引き続き市民の皆様から多様な意見を収集できるよう努めてまいります。</p>

No.	意見等の概要	市の考え方等
10	子育てしやすい環境づくりの前に、結婚しやすい環境づくり対策として、20～30代男女の出会いの場を作ったり、結婚に対する希望を抱かせるようなセミナーなどを開催すべきではないか。	小樽市人口対策会議におきましても、婚活イベントや結婚に関するセミナーの開催について提案のあったところですが、既に民間で様々な取組が進んでいることから、今後、施策を立案する際の参考とさせていただきたいと存じます。
11	市内には空き家の社宅や個人の家が沢山ある。それぞれの持ち主と契約をして、家の点検をして、内・外装はいじらず、固定資産税＋少額の金額で、これから結婚しようとする人が安く借りられる制度を作成してはどうか。	当市としましては、移住・定住者に対する経済的支援については、現在行っておりませんが、良質な空き家及び空き地を有効活用する「空き家・空き地バンク制度」により、住み替え・移住・二地域居住の促進を図っているところです。ご提言にある空家の活用につきましても、既存の民間共同住宅などを住戸単位で一定期間借り上げ、公営住宅として供給する「既存借上公営住宅制度」について、現在検討を進めているところです。
12	市が主催・後援する行事について、対象者を小樽市民に限定しているものがある。市外から大学や専修学校などに通学する学生に対象を拡大し、市民との交流を図ることで、市内就職や定住を促すべきではないか。	当市は平成22年度に北しりべし5町村と「定住自立圏の形成に関する協定書」を交わしているほか、平成26年度に「小樽市自治基本条例」を制定し、市内への通勤・通学者なども「市民」という考え方を示しているところですので、既に一部の行事等では対象者を拡大しているところです。ご提言いただきましたとおり、市が主催・後援する行事等についても、その趣旨などを考慮しながら、対象の拡大に努めてまいります。
13	冬は公園が雪置き場になるため、山のように積まれた雪で半年間も遊び場がない。未来を担う子どもの交流の場として、安全な屋外の遊び場を確保すべきだ。	当市においては、冬季の雪置き場が不足していることから、ご提言のあった件につきましては、公園の適切な維持管理という観点から検討してまいります。冬季間の安全な遊び場の確保につきましては、今後、施策を立案する際の参考とさせていただきたいと存じます。
14		
15		

* 同じ内容の意見が複数ある場合は、「意見等の概要」の最後に件数を記載してください。

* 計画等の案を修正した場合は、「市の考え方等」の欄に修正箇所を併せて記載してください。